

- 社長からのSDGs経営の実現に向けた命題について社内で検討。全社員からアンケート形式にて意見を収集。度重なる会議を通し、**経営理念とSDGsの結びつけ**を図った。
- SDGsを自分事として捉え、勉強し、活発な意見交換を行うというプロセスを通じ、**社員個々人の意識が向上**。

## ○SDGsに取り組み契機

- ・これまで**再生可能エネルギー事業**を展開していたので、取引先等へもSDGsの考え方について発信する必要があった。
- ・再生可能エネルギーのオンライン勉強会、社内勉強会等を継続的に行っていたので、SDGsを経営に取り入れるにあたり違和感はなく、取り組むための**土壌はすでに形成**されていた。
- ・**地元信用金庫、損害保険会社及び四国経済産業局**が連携し実施した**SDGs経営勉強会に参加し、取り組むための意識を高めた**。

## ○SDGsを経営にどのようにして取り入れたか

- ・SDGsを経営に取り入れるため、まず初めに社員の取りまとめができる**部長クラスを構成員とし、実行委員会を社内**に設置。
- ・全社員の意見をアンケート形式で収集。各部署ごとに集約し、実行委員会にて検討を重ねた。
- ・はじめは、目標と取組との関連付けに苦慮。目標からやれる取組を探っていくと、なかなか議論が進まなかった。**損害保険会社のアドバイザーからの意見を参考に、目標との関連づけを意識しすぎず、すでにやっている取組に対し、対応する目標をあとから結びつけるといった工夫を作業工程に加えることで、活発な議論を進めることができた。**



・社員からの意見で、経営理念とSDGsを結びつけるのはどうかとのアイデアがあり、**経営理念である「笑顔」と「SDGs」を結びつけ、整理した。**

## ○三電計装SDGs宣言

・令和3年9月21日に**三電計装のSDGsを対外的に発信**。

**社員も笑顔に  
地域も笑顔に  
地球も笑顔に**

三電計装のSDGs達成への取り組み



## ○SDGs経営に取り組んで得られた変化

- ・自社の**働きやすい環境**を作るための制度を再認識することができた。また、今まで以上に、働きやすくなる取組を浸透させたいという気持ちが生まれた。
- ・より一層、社内の風通しがよくなった。
- ・**地域の美化活動**にも取り組もうといった前向きな提案が社内でも多く生まれてくるようになった。
- ・社員がSDGsを自分事として捉え、勉強し、活発な意見交換を行うというプロセスを通じ、**社員個々人の意識が向上したと同時に、社員へ経営理念が浸透していることを確認**できた。

## ○SDGs経営における実践事例

・持続的に事業を進めていくことが重要。再生可能エネルギー事業の展開を通じてCO2削減を実施。再エネ、省エネ機器の販売を促進していくことを通じ、**持続可能型社会の実現**を目指す。

## ○今後の展開予定

・宣言に向けて取組項目をまとめたが、それを持続的に実行に移していく。これまでの幹部層を中心とした実行委員会をリニューアル。**若手を中心とした推進委員会を発足**させ、各取組項目を実際に具体的にどう進めていくかの検討を重ね、着実に実行していく。



## ○会社概要

香川県高松市に本社を構え、1968年より通信機器を主体とした販売・据付工事・保守業務を実施。現在では、通信ビジネス、セキュリティービジネス・ソリューションビジネス・省エネビジネス（太陽光発電）といった業務を幅広く展開。幼稚園に生ゴミ処理機を寄贈するなど地域の環境美化活動への取組を実施。